

「東京大会」も成功裏に閉会、ありがとうございました！

この「つながり」を「ながくて大会」(愛知大会)へ！

大会実行委員長 片桐雄一

第142回体育同志会全国研究大会「東京大会」は、氏岡真弓さんの記念講演「子どもの光が問うものは ~震災から考える教育・学校~」で始まりました。

東日本大震災直後の全国大会ともあって、子どもを守るとは、命の重さとは、子どもにとっての学校や文化・スポーツとは、ということを改めて深く考える大会となりました。教育という私たちの仕事への根本的な問いからのスタートでした。

そのことをしっかりと受け止めて、それぞれの分科会での実践提案の検討や実技での検証がすすめられ、参加者一人ひとりの熱心な議論を通して大きな成果をあげることができました。

東京大会は600名余りの参加者で21世紀大会の一つの峰を築くことができました。たくさんのご参加本当にありがとうございました。世話人、提案者、司会者をはじめ、研究を深めあったすべての皆さんに、心から敬意とねぎらいの気持ちを表します。

とりわけ東北からの参加は様々な困難があったことと思います。その中であって宮城支部の方々が準備してくださった「震災を語るつどい」は、現地の様子をリアルに知ることができただけでなく、「東北とつながること」の意味をより深く考える機会となりました。

また、数多くの民間教育研究団体と共同企画で行われた「特別講座」は、16におよぶ各教科・領域の講座が設けられました。講座内容も好評で、それぞれの研究団体の成果を学ぶことができました。

大会で学んだ貴重な財産をそれぞれの地元に持ち帰り、同僚に、学年に、学校に広げながら「つながり」を深めていただければと願っています。そして、さらに大きく強くなった「つながり」を長く手をつなぐ『ながくて大会』(愛知)に結びつけていきましょう。

この大会を支えてくださった全国の仲間みなさんに、東京大会実行委員会一同心から感謝申し上げます。ありがとうございました！

ではまた来年、「ながくて」でお会いしましょう！